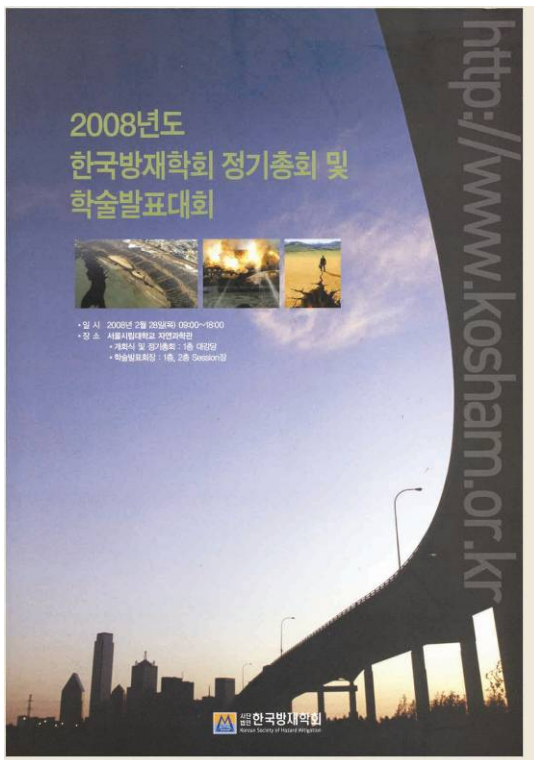


## 4. 韓国防災学会（Korea Society of Hazard Mitigation）研究大会に出席して

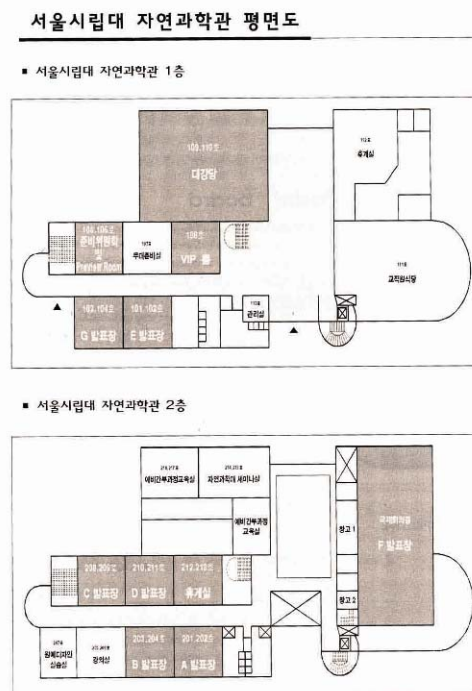
大西一嘉（広報委員会）

平成 20 年 2 月 28 日（木）にソウル市立大学で開催された韓国防災学会の 2008 年研究発表会に、カウンターパートである地域安全学会代表団として佐土原聡理事、村上ひとみ理事と共に 3 名で参加しました。私たちのために大会の最後に特別セッションを設けていただき「神戸の復興まちづくり」（大西）、「福岡県西方沖地震でのマンションの物的人的被害」（村上）、「環境と防災の問題定義」（佐土原）の 3 題の講演を行なってきました。以下はその報告である。

会期は一日だったが、午前中には総会と米国から招いたコンクリート工学の研究者（Prof. James Davidson）の基調講演が行なわれ、受付では約 200 題の論文を掲載した厚さ 4 センチ余りの論文集が用意されるなど数多くの報告が行なわれており、本格的で大規模な研究集会であった。午後からは気象、水害、森林火災、津波、海岸、橋梁、テロ、GIS、災害医療、まちづくりなどテーマ別に様々なセッションが組まれており、7 つの部屋に分かれて、前半（13:30-15:15）と後半（15:45-17:30）それぞれ 6~8 題（報告 10 分+質疑）ずつの口頭発表（全 100 題）が行なわれた。地域安全学会の秋の大会と同様に、別室ではポスターセッション（94 題）も開かれており、多くの参加者が韓国全土から集まっていた。韓国では、1994 年に死者 32 名を出した聖水（ソンス）大橋崩壊事故などで顕在化した橋梁の構造安全问题への関心も高く、構造物の損傷モニタリングシステムに関する論文も精力的に投稿されていた。韓国防災学会の参加者は全般に土木・建築など工学系の研究者が多いと思われるが、日本と交流実績の深い災害医療専門家が学会役員として参画しているなど幅広い分野からの集まりでもある。



大会プロシーディングズ



大会会場の案内図

配布されたプロシーディングの裏面には多くの協賛企業名が印刷され、受付近くには企業による防災 GIS 展示コーナーがあったり、協賛企業名の入った真っ赤な花輪が受付にいたる通路にズラッと飾られるなど、韓国らしさの感じられる華やかな雰囲気満ちている。日本でも民間とタイアップした大会運営手法は珍しいものではないが、当学会にはあまりみられない取り組みであり新鮮な印象を受けた。

ところで、北海道での地域安全学会春季大会実行委員でもある村上先生は、学生スタッフが着用していたタスキをいたく気に入って現物を持ち帰って来られたので、その活用方法をひそかに期待している。なお5月の洞爺湖大会には韓国側からも数人の研究者が来日され、共通テーマによる日本側との研究意見交換が予定されている。



大会会場となったソウル市立大学



会場入り口に並ぶ花輪が雰囲気を盛り上げる



大会受付風景



Prof. James Davidson の基調講演



レセプションでの表彰式



レセプション後の二次会にて

大会終了後には、別室にパーティ会場が準備されており、レセプションが行なわれた。私たちの興味を引いたのは、その場で行なわれた論文賞などの授賞式である。工学系や社会科学系など3つの分野別に、それぞれ若手研究者 5~6 人が次々と前に出て表彰されており、次代を担う気鋭の若手にチャンスを与えて支援しようという姿勢がみてとれた。レセプションを切り上げた後には役員との二次会が用意され、歓待を受けた次第である。

今回お世話になった金理事は横浜国立大学の留学生として佐土原先生の研究室にかつて在籍され、この研究発表会直前までの1年間はサバティカルで日本に滞在し、神戸大学と京都大学で半年間ずつ客員研究者として過ごされていた方である。